



学校だより 神橋

令和3年1月29日
横浜市立神橋小学校
2月号

鬼退治



校長 末松 隆一郎

暦は大寒。冬将軍の猛威と共に、早咲きの桜の便りも届き始めています。陽だまりの優しさに確かな季節のうつろいを感じ、かすかな春の気配に目を向けては、暖かな季節に思いを馳せる頃となりました。2月2日は「節分」です。(2月3日というイメージですが、地球が立春の位置を通過する時間単位で見るとわずかに揺らぎがあり、そのゆらぎのため立春の日付が前後し、立春前日である節分の日も動くことになるため今年は2月2日となります。ちなみに2月2日節分は1897年以来124年ぶり。)「鬼は外、福は内」と声をかけて、1年の無病息災を願い、豆まきをするご家庭も多いかと思えます。

豆まきと言えば、主役は「鬼」です。「鬼」は多くの昔話や物語にも登場し、邪悪で恐ろしいものの象徴として、古来よりその存在感を誇示してきました。今、子ども達にとって「鬼」と言えば、大人気アニメ「鬼滅の刃」にでてくる「鬼」であり、鬼退治と言えば「桃太郎」「一寸法師」ではなく、「炭次郎」であり「鬼殺隊」となりますね。そんな古(いにしえ)より伝わるヒーローや「炭次郎」達が命懸けで退治する「鬼」を、節分の時は何故豆で追い払うのか。そこには、古来より健康で安全に暮らしたい(無病息災)、幸せな人生を送りたいという、いつの時代でも変わらぬ私たちの思い・願いがあり、希有の時を超えて「節分一豆まき」という行事になったのだと言われています。



「節分」、それは季節の区切りを表します。古人(いにしえびと)は立春が新しい年の始まりと考えていたため、その前日にあたる冬から春への節分は、今でいう「大晦日」にあたり、新しい1年を素晴らしい年にするために、大晦日の日に邪気を払う行事が行われたことから、春の節分だけが残りました。つまり、「鬼」とは、「邪気が見える化された姿」であり、豆には「魔(鬼)の目=魔目(まめ)」や「魔(鬼)を滅する=魔滅(まめ)」などの語呂合わせや、もともと五穀には悪霊を払う霊力があると信じられていたため、豆で鬼(邪気)を払う行事として平安時代以降定着していったそうです。

※地域等により諸説あります。

また、仏教では五蓋(ごかい)といって赤・青・黄・緑・黒の「五色の鬼」がいると言われています。これは人間のもつ「煩惱」、誰もがもっている負の感情、弱さとのこと。「人はみな五蓋をもって生まれてくるが、自分の心から五蓋をなくせば、心穏やかに幸せに過ごせる。」という教えです。五色(五蓋)の鬼とは

- 赤鬼—食欲、自分勝手
- 青鬼—悪意、憎しみ、怒り
- 黄鬼—甘え、後悔
- 緑鬼—怠け心、不健康、
- 黒鬼—疑い深い、愚痴

の五色となります。

今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、毎年子ども達が楽しみにしている杉山神社の節分祭(豆まき)も中止となりました。厳しい状況は続きます。「豆まき」はできなくても、お互いがお互いの無病息災、そして状況収束を願い、それぞれが自分自身の五色の鬼を追い払う、今年は、そんな「節分の日」を迎えられたらと思います。